

経済と金融を考える教育シンポジウム 経済教育の今、未来

日経ホールで同時開催！

参加費
無料

日時：3月10日(土) 9時45分～17時00分
会場：日経ホール(日本経済新聞社8階)

第1部 9:45—12:00 京都大学経済教育シンポジウム

日本の金融工学をリードする京都大学経済研究所より。
経済・金融に関する基礎的な知識など、
各講師のわかりやすく工夫した講演を通して、
未来を担う若者たちや教育に携わる方たちに、
経済・金融教育の重要性について
認識を深める機会を提供します。

最先端の 金融・経済にふれる 特設アカデミー

第2部 13:30—17:00 中・高・大学生のための株式学習コンテスト

第7回 日経STOCKリーグ 表彰式&記念シンポジウム

主催：日本経済新聞社 特別協賛：野村グループ 協賛：NTTコミュニケーションズ、JTＢ
後援：文部科学省、金融庁、日本証券業協会、東京証券取引所、全国公民科・社会科教育研究会、財団法人 日本私学教育研究所、財団法人 全国商業高等学校協会

全国8,193名の中・高・大学生が参加した
株式学習コンテストの成果を発表します。
レポート審査により選出された各賞の発表と
受賞チームのプレゼンテーション。
さらに識者たちが、
経済教育のあり方について熱く語り合います。

レクチャー



「企業価値創造と不確実性～長期投資の対象を学ぶ～」
刈屋武昭氏(京都大学経済研究所客員教授、明治大学ビジネススクール研究科長)

「ゲーム理論の入門と応用～戦略的思考の技術を学ぶ～」
梶井厚志氏(京都大学経済研究所教授)



「資産運用論入門～長期投資の技術を学ぶ～」
加藤康之氏(京都大学経済研究所客員教授、野村證券株式会社執行役・金融工学研究センター長)

主催：京都大学経済研究所 協賛：野村グループ 協力：日本経済新聞社 後援：金融庁(予定)、日本証券業協会(予定)、東京証券取引所(予定)

参加申し込み方法

締め切り：3月5日(月)

郵便番号、ご住所、お名前、年齢、勤務先あるいは学校名、電話番号、参加ご希望の
コース名をご明記のうえ、電子メール、ハガキ、またはFAXで下記までお申し込み
ください。応募者多数の場合は抽選のうえ、「参加証」をお送りします。

お申し込み・お問い合わせ先 ※お申し込みの際には、必ず参加ご希望コース名をご明記ください。

Aコース	「京都大学経済教育シンポジウム」と 「第7回 日経STOCKリーグ表彰式&記念シンポジウム」の両方に参加希望
Bコース	「京都大学経済教育シンポジウム」み参加希望
Cコース	「第7回 日経STOCKリーグ表彰式&記念シンポジウム」のみ参加希望

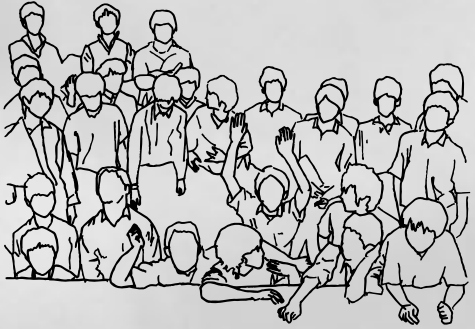
「教育シンポジウム事務局」〒104-0061 東京都中央区銀座2-16-16 GINSENビル6階
FAX.03-3545-6993 E-mail：310sympo@info.email.ne.jp
お電話でのお問い合わせ先 TEL.03-3545-9832 (10:00～18:00 土・日・祝日を除く)

夏が終わった頃、
僕たちは「株式」と出会った。



株式が社会に及ぼす影響がわかった。
逆に社会で起きたいろいろな出来事も、
株式に影響を与える事を知りました。(高等学校 生徒)

生徒が喜んで授業に取り組んでくれたのが何より嬉しかった。
保護者の勤めている会社の株価を見たり、
保護者に銘柄を相談した生徒もいたようで、
家族とのコミュニケーションにも
一役買ってくれた。(高等学校 教諭)



教材が無料配布。公立学校ではなかなか実現しない
バーチャルな学習はとても役立ちました。
最初、子供たちは日経新聞は難しいとこぼしていましたが、
読むスキルを知らず知らず身につけ、
他の新聞がやさしいと言うまでになりました。
このような取り組みは、国の将来を担う子供たちに
生きる力を身に付けるきっかけとなります。(中学校 教諭)

日経STOCKリーグとは
日本経済新聞社が主催する、中、高、大学生を
対象とした株式学習コンテストです。5人までの
グループに先生がついて、2ヵ月間投資シミュレ
ーションを行います。投資の対象にテーマを設定し、
参加チームはポートフォリオや学習の結果につ
いてのレポートを作成します。2006年度の第7回
大会には、全国から2,065チーム、8,193名が
参加しました。ほとんど知識ゼロの状態からスター
トして、自分たちで学び、考え行動し、中には企
業訪問を行ったグループもありました。教科書の中
の知識だけでは得ることのできない、生きた経
済にふれ、未来に向けて力強い一歩を踏み出し
た若者たち。その成果が、もうすぐ発表されます。

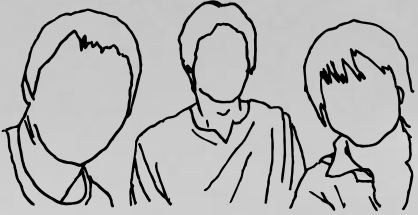
新聞を読むにしても、
単語がわからない時が多かったが、
教材を使う事でよく理解できました。(中学校 生徒)

「株式＝金儲けの感覚」の再検討から始め、
事前調査と選出した13社への訪問による確認・補正を含めて
レポート作成までこぎつけました。
企業側も好感をもって対応してくれたので、
ゼミ生も自分達に自信を持つ事ができました。(大学 教員)



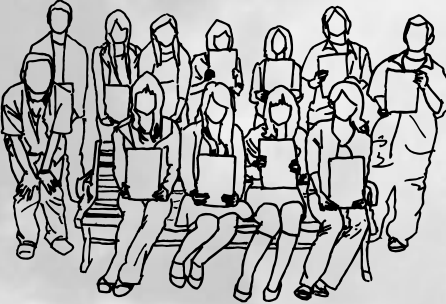
普段の授業では学ぶ事ができない
生の体験ができた。
社会の動きに関心が持て、ニュース番組を
真面目に見るようになった事は、
大きな収穫だった。(高等学校 生徒)

一番学んだ事は、投資と投機の違い。
株式は売買利益のみにとらわれるのではなく、
応援したい会社を長期的に見て、
一生物だと思って買うものだと思います。(高等学校 生徒)



東証1部に上場している企業でも
知らない企業がほとんどで、
日本経済が、自分の知らない多くの企業に
支えられている事に驚きました。(大学 学生)

新聞や日経会社情報などあまり読んでいなかったが、
日経STOCKリーグを通して毎日読むようになった。
それによって色々な知識が増えた。(中学校 生徒)



株式の動きを研究するために、企業の行動に注目するようになり、
株主が企業の行動を監視するという事が実感できました。
まだまだ、日本は株式を保有する文化が広まっていないと思うので、
もっと株式市場が発達して、経営の良い企業を伸ばしていく仕組みが
機能すればいいと思います。(大学 学生)

生徒の学習意欲や満足度が大変高いです。
生徒はこの学習を通じて、経済や社会の動きに
目を向けるようになりました。(高等学校 教諭)

直接金融が持つ意義と、それに対する関わり方を
徹底的に教授する事が、義務だと思います。(大学 教員)

中・高・大学生のための株式学習コンテスト

第7回 日経STOCKリーグ 表彰式&記念シンポジウム

日 時: 3月10日(土) 13:30—17:00

会 場: 日経ホール(日本経済新聞社8階)

参加費: 無料

若者たちの経済学習の成果をお見せします。レポート審査により選出された最優秀賞(米国研修旅行にご招待)はじめ各賞の発表。プロ顔負けの知識と若者ならではの新鮮な発想に満ちたプレゼンテーション。さらに経済界のリーダーたちが、経済教育のあり方について、熱く鋭く語り合います。

表彰式	表彰 最優秀チームによるプレゼンテーション	
記念講演	池上彰氏(ジャーナリスト)「これでわかる!国際経済の見方〜世界地図から見えてくるもの〜」	
パネルディスカッション	「金融・経済教育の現状と今後」(仮題)	
パネリスト	田村耕太郎氏(内閣府大臣政務官)、三原淳雄氏(経済評論家)、 藤沢久美氏(シンクタンク・ソフィアバンク副代表)、海津政信氏(野村証券 金融経済研究所長)	コーディネーター 槇徳子氏 (テレビ東京「株式ワイド クロージングベル」キャスター)

日経ホールで同時開催
京都大学経済教育シンポジウム「最先端の金融・経済にふれる特設アカデミー」

日 時: 3月10日(土) 9:45—12:00 参加費: 無料

レクチャー	刈屋武昭氏(京都大学経済研究所客員教授、 明治大学ビジネススクール研究科長)	「企業価値創造と不確実性〜長期投資の対象を学ぶ〜」
	梶井厚志氏(京都大学経済研究所教授)	「ゲーム理論の入門と応用〜戦略的思考の技術を学ぶ〜」
	加藤康之氏(京都大学経済研究所客員教授、 野村証券株式会社執行役・金融工学研究センター長)	「資産運用論入門〜長期投資の技術を学ぶ〜」
主催: 京都大学経済研究所 協賛: 野村グループ 協力: 日本経済新聞社 後援: 金融庁(予定)、日本証券業協会(予定)、東京証券取引所(予定)		

参加申し込み方法

郵便番号、ご住所、お名前、年齢、勤務先あるいは学校名、電話番号、参加ご希望のコース名をご明記のうえ、電子メール、ハガキ、またはFAXで
下記までお申し込みください。応募者多数の場合は抽選のうえ、「参加証」をお送りします。

Aコース:「京都大学経済教育シンポジウム」と「第7回 日経STOCKリーグ表彰式&記念シンポジウム」の両方に参加希望
Bコース:「京都大学経済教育シンポジウム」のみ参加希望
Cコース:「第7回 日経STOCKリーグ表彰式&記念シンポジウム」のみ参加希望
※お申し込みの際には、必ず参加ご希望コース名をご明記ください。

締め切り: 3月5日(月) 必着

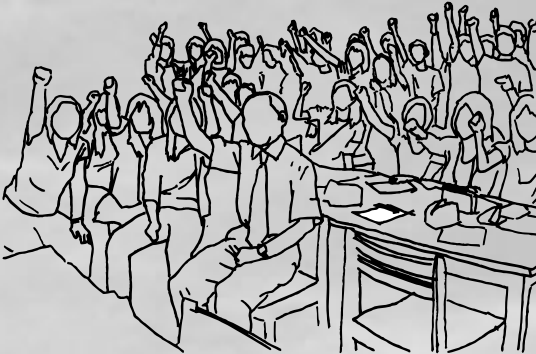
お申し込み・お問い合わせ先

教育シンポジウム事務局 FAX.03-3545-6993

E-mail:310sympo@info.email.ne.jp 〒104-0061 東京都中央区銀座2-16-16 GINSENビル6階
お電話でのお問い合わせ先 TEL.03-3545-9832 (10:00〜18:00 土・日・祝日を除く)

経済学習サイト man@bow(学ぼう)にアクセスすれば、
日経STOCKリーグがくわしくわかる。

<http://manabow.com>



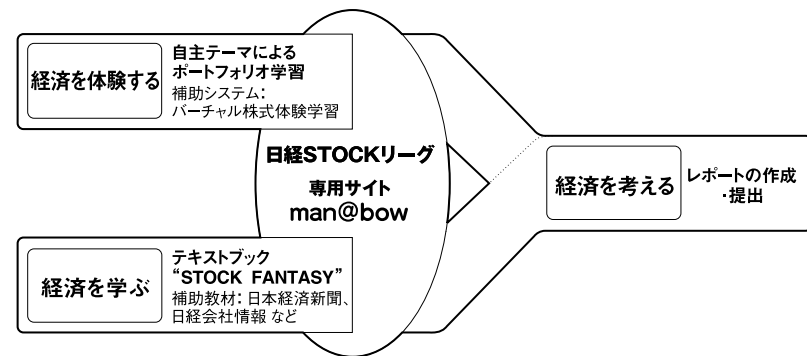
第7回 日経STOCKリーグ 結果発表

生きた経済を体験した8,193名の若者たち

日本の将来を担う若者たちが、生きた経済に触れ、学び、考えていく。日本経済新聞社では、中学生から大学生までを対象とした株式学習コンテスト「第7回 日経STOCKリーグ」を、昨年開催。全国より2,065チーム、8,193名が参加しました。日経STOCKリーグに参加した若者たちは、インターネットを活用した「バーチャル株式の体験学習」や各自の投資テーマに沿ったポートフォリオづくりなどを通して、実際の経済の動きを体験し、金融の仕組みを学んでいきました。

この体験をもとにつくられた力作レポート1,309点を、審査委員会が審査し各賞を決定。3月10日に日経ホールにて、表彰式と記念シンポジウムが開催されました。教科書のなかの知識だけでは得ることのできない、生きた経済に触れ、自ら学び、考え、未来に向けて力強い一歩を踏み出した若者が、すでにのべ約41,171名。今回もたくさんの若者が日経STOCKリーグをきっかけに、「経済」という新しい視点を持ち、日本の進むべき道を見つけてくれたはずで

“日経STOCKリーグ”そのコンセプト



最優秀賞

チーム全員を
米国研修旅行に
ご招待

金融担当

大臣賞

★町おこしファンド★

～最強大分の創造をめざせ!～

大分県立情報科学高等学校 3年

チームメンバー：松尾 あずささん、安藤 真琴さん、吉永 唯さん
担当教諭：衛藤 準氏



1年前、課題研究という授業の中で株式について初めて学習を始めました。最初は株式そのものを理解するのに大変苦労しましたが、13名の同級生たちと“めざせ、ニューヨーク”を合言葉に、3チームでお互いに良いレポート作りに邁くまで頑張りました。

私たちのレポートテーマ設定のきっかけは、大分県は人口約120万の九州でも中規模県ですが、1人当たりの県民所得が福岡県を抜いて九州No.1となったという昨年のニュースです。

私たちの住む大分は古くは豊後といい、今でも豊かな自然、山海の幸に恵まれた。まさに“豊の国”ですが、この40年程で大きくへんばうを遂げようとしています。最近、格差社会という言葉が定着し、地方と中央の格差は開くばかりですが、本県だけを見ると着実に経済的には上向きです。豊の国として第一次産業が盛んだった県から、21世紀の日本生き残りのキーワードといわれる“ものづくり”産業中心へうまく転換できたからこそだと思います。数字的にみても、全国の多くの地方が伸び悩む中、本県は2003年度の1人当たりの県民所得、2003年度の実質経済成長率、2005年度の製造業設備投資額、7月の有効求人倍率が福岡県を抜いて九州No.1となり、経済的には九州で最も豊かな県といえます。

このように大分が急成長したのは、一村一品で有名な平松守彦知事が、新産都構想をさらに加速させ、テクノポリスなどの新たな企業誘致や情報化を、20年以上継続させ産業構造の転換を行い、それをさらに現経済産業省の後輩であり事務次官まで務めた現広瀬勝貞知事が、スピード感のある決断で次々と企業誘致を成功させ、それに伴う港湾や道路などのインフラ整備を徹底してきました。さらに昨年5月、日本経団連会長に本県出身で本県に大規模工場拠点を建設したキャノン御手洗富士夫会長が就任、日本の官と財を代表する2人が、郷土大分の発展の

ために行っている施策や今後を考えると、今まさに“大分こそ買い!”と考えました。

これからは、中央頼みでは地方は生き残れないことを、住民が感じるのが重要です。その結果、自分たちの資金をそういった地元優良企業に投資する風土を創る。その好循環ができれば、九州No.1となった大分は、発想を変えれば、自立的発展が充分可能なのではないかと考え、“21世紀型故郷ファンド”を設定し、

①ものづくり分野：県内立地の製造業

②ものづくりサポート分野：金融・電力・人材派遣など

③県民の消費還元分野：ファミリー全般、女性、男性、その他サービスへの消費(豊かな自然・スポーツ、健康などへの波及を念頭)に分散投資しました。

ファンドの中心は、世界的なもののづくり企業や大分発のオンリーワン企業でした。またそういった企業をサポートする金融や電力業界、人材供給界の企業も組み入れました。それらの就労で得たお金が地元企業で、各分野・年代で消費され、非製造業もさらに潤いをもたらされる。また一部は地元に関係の深い金融界に預金され、企業への再投資に向かうという、地域内での好循環を産みだし、広く県民が幸せを実感できる社会を創り出すという、当初のテーマに沿った、自分たちなりに満足するポートフォリオができました。

今回の学習を通じて、今まで興味や関心なかったニュースや新聞などの情報に敏感になり、自然と注目するようになりました。また、私たちの高校は、商業科と工業科が一緒になった学校ですが、近年工業科には多くの求人が殺到し、商業科には少ないのはなぜかが、この学習を通じて理解できました。

そして、株式投資の本来の意義をもっと多くの人が理解し、自分たちの暮らす街の優良企業を直接支援すれば、意見も積極的に言え、もっと住み良くなることもできると思いました。誇りを持てる故郷に、自信をもって投資できるような夢の広がるポートフォリオを完成することができました!

吉永 唯

日経STOCKリーグを体験して今まで株式に対して思っていた堅いイメージがなくなり親近感みたいなものがわいてきました。“日本一”はとても信じられないことだけど、とてもすごいことで高校生の最後にとっても良い経験ができました。

安藤 真琴

最優秀賞がとれて、とてもうれしいです。1年間、株式について理解することにとっても苦労しました。だけど、チームがすごく良く乗り越えることができました。この1年間の勉強をこれからの生活に役立てていけるように頑張っていきたいです。

部門賞 高校部門

賞金20万円

日経STOCKリーグを通じて、バーチャルではあったも500万円を投資する「経験」ができたことは、本当によかったと思います。テーマを設定して企業を調べること、似ているような同業の企業でもサービスや事業戦略で違いを出していることが新たにわかり、企業の見方が変わりました。



Edy

～「Edyで。」と言わなくなる時代～

早稲田大学本庄高等学院 3年

チームメンバー：島田 雄太さん、衣笠 積吾さん、野村 正和さん

担当教諭：海老原 崇氏

部門賞 大学部門

賞金20万円

日経STOCKリーグについては、昨年参加した先輩の発表を見て興味を持っていました。今回のテーマは、景気が回復したといわれながらも、その実感がない日本を元気にしようという漠然とした思いから設定しました。チームを強く引っ張るリーダーが、このグループにはいませんが4人の意見をうまく反映した良いレポートができたと思っています。



共想源泉への投資

～社員の帰属意識向上を考える～

一橋大学3年

チームメンバー：浅井 崇宏さん、高野 清里さん、炭本 千恵さん、木下 欣生さん

担当教諭：加賀谷 哲之氏

部門賞 中学部門

食育が育てるブランド力

筑波大学附属駒場中学校3年

チームメンバー：開出 雄介さん、辻 賢太郎さん、安田 憲司さん、平田 貴大さん

担当教諭：大野 新氏

チーム全員をユニバーサル・スタジオ・ジャパンまたは東京ディズニーリゾートにご招待

やりがいのあるテーマを見つけるのが大変でしたが、メンバー各自で新聞を読み「食育」というテーマを設定しました。「食育」について調べの中で、企業の行う社会貢献活動は、企業のブランドイメージ向上という企業側の利己的な側面だけでなく、実際に社会の役に立っていることが理解できました。そのような企業に投資することで社会を変えることができると思います。



敢闘賞

(中学部門は図書券5万円分、高校・大学部門は賞金5万円)

- 鹿児島大学教育学部附属中学校 1年 / 「自分の身は自分で守り隊～安全・防犯に貢献する企業に投資する～」
- 群馬県立高崎商業高等学校 3年 / 「Dreams Come True!～夢に取り組む企業を応援する～」
- 慶應義塾大学 3年 / 「第三次エネルギー革命～石油代替エネルギー開発企業への投資～」

- 立教池袋高等学校 2年 / 「ホカホカ一人暮らし～目指せ!余格の懐～」
- 一橋大学 3年 / 「組織資本力～次世代の日本の競争力～」
- 慶應義塾大学 2年 / 「日本文化を投資で守る!」

審査委員奨励賞

(賞金3万円) ●開成高等学校 1年 / 「投資で格差社会を生きる～格差社会に着目した株式投資～」 ●横浜市立大学 2・3・4年 / 「ACEをねえ!!～はばたけ!未来のリーダー企業～」

パフォーマンス賞

(賞金3万円) レポート提出チーム中で、自主テーマによるポートフォリオ学習(仮想株式投資権500万円を運用)の残高(2月1日時点)上位5チーム

- 山梨学院大学 / 6,163,095円 ●東京都立富士森高等学校 / 6,155,510円 ●専門学校 禅林学園 / 6,019,439円 ●香川県立観音寺中央高等学校 / 6,002,716円 ●静岡県立沼津商業高等学校 / 5,993,446円

第8回日経STOCKリーグ 参加チーム募集開始

参加チームをサポートされる先生のための説明会を開催します(7月下旬予定)。
開催日時、詳細などにつきましては、参加手続き終了後に直接ご案内いたします。

内容 中学生・高校生・大学生を対象にした「自主テーマによるポートフォリオ学習」および「レポートコンテスト」

参加期間 ①「自主テーマによるポートフォリオ学習」：2007年10月1日～11月30日
②「レポートコンテスト」の締め切り：2008年1月11日
※「バーチャル株式の体験学習」：チーム登録後～2008年3月下旬(任意参加)

参加資格 国内在住の中学生・高校生・大学生(短期大学生、専門学校・各種学校生含む)

参加申込方法 経済学習サイト man@bow (学 ぽ う) <http://manabow.com/> からの申し込みとなります。

参加申込受付期間 第1次締め切り：6月30日(土) / 第2次締め切り：9月8日(土)

お問い合わせ 日経STOCKリーグ事務局
TEL:03-3545-9823 E-mail:stockleague@info.email.ne.jp
※1チーム3～5名とし、チーム単位でお申し込みください。同じ学校内であれば、チーム編成はクラス、クラブ、ゼミなど自由です。
※ご参加いただく際は必ずご指導いただく教諭(教官)をお付けください。

賞	
チームメンバー全員を 米国研修旅行にご招待	
最優秀賞	全参加チームより1チーム
部門賞	中学部門・高校部門・大学部門より各1チーム、計3チーム 【中学部門】ユニバーサル・スタジオ・ジャパンまたは東京ディズニーリゾートにご招待 【高校・大学部門】賞金20万円
敢闘賞	中学・高校・大学部門から数チーム 【中学部門】図書券5万円分【高校・大学部門】賞金5万円
パフォーマンス賞	全参加チームより上位5チーム 賞金3万円 ※「ポートフォリオ学習」に参加し、またレポートを提出したチーム全員に「参加賞状」を差し上げます。

第7回 日経STOCKリーグ表彰式&記念シンポジウム

いま、なぜ金融・経済教育が求められているのか

日経STOCKリーグの表彰式に合わせて記念シンポジウムが、日経ホールで開催されました。
教育の現場、経済の現場で活躍中の著名人を迎え、経済教育やこれからの日本の教育のありかたについて、熱気あふれる討論が行われました。

記念講演

「これでわかる!国際経済の見方～世界地図から見えてくるもの～」

池上 彰氏

世界地図を見ながら世界経済の見方をごさみしょう。一口に世界地図と言ってもさまざまな違いがあります。世界を見る鍵は、その違いの間にある何かを考えることにあります。

まず、世界地図を思い浮かべてください。頭に描いた地図はたぶん、日本が中央、右手側にアメリカがあるものだと思います。でもこの地図を思い浮かべるのは私たちだけです。

地図は発行国などによって異なります。イギリスの世界地図では世界の中心はヨーロッパ。日本は東の外れです。イギリスはかつて植民地だったインドあたりを「東」とイメーシします。イランやイラクのあたりを「中東」と言うのは、東の途中にあるから、日本のあたりを「極東」と呼ぶのは東の外れという意識だからです。この地図を見れば、北朝鮮の核問題をめぐる六カ国協議のユースなど、「極東」の大国が欧米では小さな扱いであることも理解できます。既に核兵器らしきものを保有している北朝鮮と比較すれば、イランは初歩段階。にもかかわらずイランのユースの扱いが大きいのは、東の外れの出来事より近いイランのほうが気になるから。欧米人にとって北朝鮮の核問題はしよせん「極東」の出来事なのです。

例をもう一つ。イランの世界地図にイスラエルは存在していません。イランはそもそもイスラエルという国の存在を認めていない。だから地図にも存在しないのです。

地図は時代によっても違います。かつて台湾で使われていた世界地図では、台湾は「中華民国」の名で、モンゴルまでもその一部でした。でもモンゴルは別の国です。この地図はフィリピンです。八年前によりよくなりましたが、「中華人民共和国(中国)」はいまだに「中華民国」のままです。一方、中国の世界地図では「中華民国」は存在せず、台湾は台湾島となっています。

北方領土問題はとうなっているのか。中国の地図では北方四島は日本のものとしています。反日感情の強い中国が、なぜ日本の主張を認めているのかと思うでしょう。世界情勢を理解するためのキーワードは「敵の敵は味方」です。かつて中国と旧ソ連は、中国が核兵器を作り始めたことをきっかけに対立し、自国防衛のためにそれぞれが敵の敵を味方に引き入れ、包囲網を構築していました。その過程で中国はソ連と激しく対立していたアメリカを包囲網に引き入れたため、日本とも友好関係を構築することが必要と判断。北方領土問題については日本の立場を尊重することにしました。もちろんロシアの世界地図では北方四島はロシアのものになっています。ちなみに日本と竹島(韓国名:独島)をめぐる対立が続く韓国の地図では、北方領土はロシアのものです。

このように地図は発行国によって、また作成した時代によつて、多くの違いがあります。そこからは各国の持つ歴史や、国同士のパワーバランスが投影されていると思いませんか。

最後にお見せするのは、ドイツの子ども用デスクマットです。これには世界地図上に各国のイメージ画があるのですが、さて日本には何が描いてあるのか。何と忍者、芸者、お相撲さんなどが描かれています。現代のドイツでもこれが日本に対するイメージなのです。「は？……」と思われるかもしれませんが、逆に逆にならわれ日本人の中には、ドイツについてソーセージやビールしか思い浮かばない人も少なくないでしょう。でもそれでは正確なものです。

つまり、知ろうとせず、直接見もしないでステレオタイプな考え方を抱き続けるのは危険だということです。世界は変化しつあるといふこと。その変化を知つて欲しい。自分の見方が絶対だと思わず、別の見方があるかもしれないと思つて欲しい。そして「この国だと習ったことだけでではなく、今はどうなのかを知ろう」とできれば自分の目で見て欲しいです。世界を若々しい感性で見つめ、先入観のない世界観を構築し、明るい未来を切り開いていただきたいと思っています。



パネルディスカッション

「金融・経済教育の現状と今後」

コーディネーター

パネリスト

榎 徳子氏
(テレビ東京 株式ワイド クロージングベル キャスター)

田村 耕太郎氏
(内閣府 大臣政務官)

三原 淳雄氏
(経済評論家)

藤沢 久美氏
(シンクタンク ソフィアバンク 副代表)

海津 政信氏
(野村證券 経営役 金融経済研究所長)

榎 「日経STOCKリーグ」も回を重ね、今回で第七回になりました。まずレポートをお読みになった感想をお聞かせください。

三原 経済に対する理解が年ごとに深まってきたと体感しました。以前は株式という単なる金もうけと思われ、風潮が強かったのですが、最近では周囲の理解も進んでいるように思います。若い皆さんがSTOCKリーグを通じて学んだことを大人たちと一緒に議論し、皆で知識を共有するきっかけになれば良いと思います。

藤沢 着眼点が幅広くなり、経済に対する考え方が深まりつつあると感じました。私がレポートを認める上で重視したのは、レポート作成後に何を感じたか、具体的なステップにつながる考察があるかという点ですが、これは前回に比べ充実してきたと思います。

海津 地域に密着したテーマが多い印象を受けましたが、全体として発想が多様性に富み、レベルが上がっていると思います。ただ若干、視点点が日本国内に集中し過ぎています。また期待値による安易な予測や理論展開のレポートもあつたのは否めません。次回以降は、ぜひグローバルゼーションを意識したレポート作りを組み、深く考察してほしいと期待しています。

田村 受賞された方のレポートは、非常に優れた内容です。実は国内経済の活性化という点で政府が目指していることに似た部分があり、いろいろなアイデアをいただきました。

榎 年々STOCKリーグへの参加者が増えています。投資教育もしくは金融教育が成熟してきたという実感はありますか。

藤沢 参加者の増加は、金融経済教育などへの考え方が変化していることの象徴だと思います。ただ子どもの教育と併せて、先生や保護者への教育も充実させなければ、という懸念材料の一つです。STOCKリーグに参加された皆さんが自分たちが学んだことをぜひ大人のにも伝えてください。

海津 野村証券では学生・社会人向けに教育講座を開いていますが、株式投資に対する姿勢は年ごとに前向きになっていると実感しています。

田村 今の動きをいっそう進展させるために、国としても学習指導要領の中に金融経済教育を加えることを文部科学省に要請しています。また先生への投資教育も行う施策を推進中です。

榎 英語では株式投資のことをインベストメント(長期の投資、トレーニング)短期の売買、スキュレーション(投機)の三つに明確に分けています。日本では非常にあいまいなのですが、これについて考えを聞かせてください。

藤沢 私は短期・長期の取引ともそれぞれ意味があると思います。短期だけでもいいし、長期だけでもいい、両方でもいい。まずはわずかな資金でも、自分の判断で体験してみることが大切だと思います。その体験を通じ、多くのことが学べるはずですよ。

海津 インベストメントとトレードは両立するもので、両方あつて良いというのはその通りです。ただ短期で利益を上げるのは、実際には大変難しいのです。企業の価値は一日や二日では変わらないにもかかわらず、さまざまな変動要素が入ってきます。通常の経済状態で企業のガバナンスが効いていれば、株価は十二年のタイムで上昇していくことが多く、長期投資の方が取り組みやすいと思います。また東京の株式市場はこの数十年来で最も良い状況になったと見ています。市場インフラの整備が進み、国内外のさまざまな見方の投資家が集まっています。長期の運用に積極的に取り組んでいくためのベースがしっかりと出来上がってきたといえます。

三原 結果として短期で売却するケースはあるでしょうが、やはり私は長期のインベストメントをお勧めしたい。株式を長期保有することで、その会社の経営を応援するというスタンスで取り組んでほしいと思います。どんな投資手法であつても、最初に自分のステップをきちんと決めてから参加することが基本です。

榎 今後、日本が金融立国として発展していくためにどんなことが必要でしょうか。

田村 国はまずインフラ構築に注力していく考えです。また同時にあらゆる面で国際化を進めていきます。現在、外国人の株式保有比率はおおよそ三割を占めます。これをさらに増やしたい。パリエーションをより正確にするためにも、グローバルな投資家を拡大すべきと考えます。たとえば金融機関の経営者が日本人ではなくても、投資する者が日本人でなくても、そこで行われる取引が優れたし、国民を豊かにするからです。さらにインフラとプレイヤーに加えて、ルールについても国際的に通用性の高いものにする必要はあります。また早い時期からの投資教育と英語教育も必要でしょう。

三原 国際化は避けて通れないことがすでに現実です。世の中のお金が世界の債券市場、株式市場、商品市場、為替市場の中を縦横無尽に動く時代、日本語だけでは対応できるはずはありません。金融資産、不動産をはじめ多様な選択肢があり、どの通貨でそれを購入するかについても選択肢は広がるばかりです。従ってポートフォリオを組むときは、何であつても対応できること、大局を見ることとが不可欠になるでしょう。

一方で、投資で巨大な財を成したウォーレン・バフェット氏は



楽しいことをポイントに株式を購入していたことを知ってください。この会社の大株主になったらどんな楽しい将来が想像できるか、そういった会社に投資してきたとバフェット氏は語っています。自分自身が楽しんでいくという姿勢が大切だと思います。

藤沢 近年、市場の透明性が高まりつつあると感じています。今後は、私たち一人ひとりが不透明な動きをする企業を取り締まっていく時代になるのではないのでしょうか。インターネットがもたらしたネット革命は、国民一人ひとりに判断の権利と義務が移譲されてきたことを意味します。これを行使しない手はありません。また国際化にも前向きに取り組まなければならないでしょう。ただ、同時に考えるべき課題があると思います。最近、アメリカに行つてよくいわれることは、今はカリスマ的なリーダーではなく、目に見えない大衆が世の中を動かす時代に変わってきているということ。そして今後起こることはわからないが、その答えを持つのは日本人ではないか、という期待も耳にします。日本が長年培ってきた輝や武士道の思想や、かつてさまざまな地域から人が集まり島国として歴史を重ねてきたことが、今後の世界のあり方を考えるヒントになるのでは、というのです。これに私も同意します。だから世界に目を向けると同時に、日本の文化や思想について勉強し直すことも必要だと思います。格差社会と言われますが、日本は世界の中でも圧倒的に豊かです。この豊かな日本人が、インターネットや投資を通じて世界にどんな貢献ができるのか。これが本当の国際化、本当の意味での金融の国際化だと思います。

海津 われわれも国際的なプレイヤーとしてもっとチャレンジしなければと思います。あらゆるプレイヤーも投資家も、グローバルな環境下で自己責任で挑戦していく。そうして切磋琢磨すること、五年後、十年後には今より金融立国に近づいていると思っています。

日経STOCKリーグのくわしい内容、受賞レポートの内容は、経済学習サイト man@bow (学ぼう) でご覧いただけます。 <http://manabow.com/>

後援：文部科学省、金融庁、日本証券業協会、東京証券取引所、
全国公民科・社会科教育研究会、
財団法人 日本私学教育研究所、財団法人 全国商業高等学校協会

協賛：JTB